

平成21年度第2回磐田市立図書館協議会会議録

日 時 平成22年2月10日(水) 午後3時から午後5時まで

場 所 磐田市立中央図書館2階会議室

出席者 委員：青島公悦(会長)、寺田美津子、川井士朗、鈴木嘉子、山岡裕子、壁屋匡美、  
大坪裕子、高梨俊弘、平野富美子 (欠席者)：伊藤節夫(以上敬称略)  
(事務局等)

飯田正人教育長、久野緑子指導主事

中央図書館：金原伸治館長、鮫嶋篤克館長補佐、長島雄一郎主幹、太田雄介

福田図書館：大庭紀二館長 竜洋図書館：後藤 章館長

豊田図書館：金子豊次館長 豊岡図書館：天野 進館長

内 容 以下のとおり

1 開会(鮫嶋補佐)

本日は大変お忙しいところ、ご出席いただき誠にありがとうございます。

本日の出席委員は、定数の過半数を超えていますので、会議が成立しておりますことを報告いたします。ただ今から、平成21年度第2回磐田市立図書館協議会を開催いたします。

なお、「磐田市審議会等の設置及び運営に関する指針」の規定により、当協議会は会議の公開等を行うこととなっております。これに伴い、本日の会議の開催日時や議題及び傍聴等について、既にホームページに掲載しておりますが、現在傍聴者はおりませんのでご報告いたします。

2 会長あいさつ(青島)

昨年10月に開催された静岡県図書館大会へは、多くの委員さんの参加があったことに深く感謝申し上げます。また、図書館からは毎月発行される「図書館だより」や福田図書館長からも様々な図書に関する情報を伝えてもらっている努力に、併せて感謝申し上げます。

さて、経済不況の波はいまだに続いていることは、皆さんもご承知のことと思いますが、会議資料の実績を見ると図書館の利用率は着実に上がっています。このことから、図書館資料が充実していることが伺われ、このような社会状況の中でも利用者にとっては大変ありがたい環境を整えてもらっていると思います。

本日は、これらの状況も踏まえ、各議題を慎重にご審議いただくよう、よろしく願いします。

3 教育長あいさつ(飯田教育長)

年度末のお忙しい中、当協議会にご出席いただき誠にありがとうございます。日頃から教育行政はもちろん図書館の運営に、ご理解とご協力、そしてご支援をいただき併せ

て感謝申し上げます。

さて、ただ今会長のごあいさつにもありましたように、経済環境は大変厳しいものがあります、しかしこういう時こそ、子どもの読書活動の広がりや図書館の賑わいは、私たちに元気を出させてくれる源になると考えております。

読書を通じて人の優しさや心を感じることができ、それが土台となって豊かな創造力を育み、豊かな社会の実現にも繋がってまいります。

2010年は「国民読書年」であります。図書館の役割もこれまで以上に益々大きくなっていくことも踏まえ、協議内容も重要な事項ですので、よろしくご審議の程お願いいたします。

#### 4 議事（青島議長）

##### （1）21年度事業報告について（4月～12月）

事務局から説明

（長島主幹）⇒事業報告資料より概要説明

○開館日数、入館者数

○登録者数⇒利用者カードの再発行数も含む。（5月の発行数が多いのは、新入学児童へのカード交付が要因）

○貸出状況、資料所蔵状況

○レファレンス状況

○コピー・インターネットサービス

⇒コピーサービスが無かった時は、本を切り抜かれるケースあり。

⇒インターネットによる図書の予約が増え、全体のアクセス数における予約の割合も大きくなっている。

⇒ベストリーダー・ベストリクエストは、新刊・予約本が大勢を占めている。

○子ども読書活動推進計画

#### ◆質疑・意見等

（青島議長）中央図書館も他館も各種データは同様な推移を示しています。貸出件数も伸びているし、図書館で本を借りたいという市民等の傾向がより強くなっているのではないかと思いますがいかがでしょうか。

（金原館長）昨年は新型インフルエンザの影響も相当心配をしましたが、図書館としてはこの影響に伴う閉館もなく、通常どおり開館できて安堵しております。

（青島議長）貸出点数の伸びは、大変ありがたいことであり、評価できると思います。

（長島主幹）合併以後、18・19年度は横ばいではあったが順調に増加しています。これには、インターネットによる図書の予約が可能であること、また5館のネットワークの充実等も要因の中に含まれているのではないかと思います。

ただ、貸出点数を評価の指標にすることが良いかどうかは、なかなか判断が

難しいものと考えています。

(高梨委員) 新規登録者については、新小学1年生の登録数を除いても結構増えていると思います。この新規登録者の年代別内訳がわかれば教えていただきたい。

(長島主幹) 細かなデータは持っていませんが、窓口対応の状況から推測するとそれほど各年代の差はないと思います。

(鈴木委員) おはなし会のメンバーに、図書館の本を借りようと呼びかけあっています。磐田市立図書館の児童図書は多く揃っていると思います。しかし、例えば読み聞かせの場では、本をなるべく自分の手元に置いておきたいという思いがあるため、児童図書の貸出が少なかったことに繋がっているような気がします。

(川井委員) 現在自分が携わっている関係で、発達障害児の保護者の中には、独りよがりの親が目立っています。例えばどんな本を読んでいるかと聞いても、本を読む時間がない、それどころではない、というのが実情です。親子間の触れ合いはとても大切なことであり、今年は国民読書年でもあるため、何か仕掛けるようなきっかけができれば良いと思います。

(金原館長) 後ほどの議題の中にある、22年度の図書館運営の方針の中でも触れたいと思います。

## (2) 22年度市立図書館運営について

事務局から説明

(金原館長) ⇒資料概要説明

### ○基本方針・運営方針

⇒今後5年間程度の期間における方針を掲げ、これを基に具体的な施策を進めていく。

### ○重点事業（今後5年間の中期目標）

⇒各種サービスの充実（レファレンス、高齢者、市民活動支援等）

⇒資料の充実、子どもの読書環境の充実

⇒図書館利用が困難な方々へのサービスの充実

⇒5館の機能強化、施設の安全性・快適性の確保

⇒図書館コンピュータシステムの更新

⇒職員の能力向上（CS向上、専門能力の向上）

### ○事業概要（平成22年度）

⇒国民読書年関連（図書特設コーナー設置、読書活動推進啓発等）

⇒施設管理事業（静岡産業大学図書館との連携等）

⇒親子読書推進事業（子ども読書活動推進計画の見直し、ブックスタート、講演会・研修会・講座の実施等）

⇒茶の間ひととき読書運営事業

⇒展示室・視聴覚ホール活用・公開講座開設・天体観測室活用事業

⇒資料整備事業、視覚障害者サービス事業

## ◆質疑・意見等

(川井委員) 親子読書推進事業に関連して、先ほども述べたが、独りよがりの子育て中の親は、仲間が少なく結果的に孤立してしまう場合が多いです。そうなる则ち自己防衛に走る状況へ繋がっていくことがあります。現在、5月頃にNPO法人を立ち上げ、このような状況に陥らないよう、親同士の幅広いネットワークができることも視野に入れ、何か仕掛けを企画していきたいと考えています。この点において、図書館においても何かできるといいと思います。

(山岡委員) 豊岡図書館を利用させてもらっていますが、とても親しみやすく感謝しています。学校においても、朝読書や茶の間ひととき読書活動などが浸透し、いわゆる「読書の入門期」は順調に進んでいると思います。しかし、この時期を過ぎてから「大人の読書期」へはなかなか繋がっていかず、結果的に独りよがりになってしまう環境があるように思います。これを踏まえると、川井委員の言われたことも実感できます。子どもと一緒にいることができる時期の年代に対する働きかけが、何かできれば良いと考えます。

また別件として、子どもの読書環境の充実策の中で、「学校図書館」という名称を表記してくれたことは、大変ありがたく思っています。しかし、現状ではまだ「学校図書室」であるため困難が多いのですが、「学校図書館」へ少しずつ向かっていけるよう、今後も市立図書館と連携させてもらえればありがたいと思っています。

(大坪委員) 静岡産業大学図書館における市民サービスの観点から言うと、一般利用者は昨年度と今年度の12月までの実績を見ても増加傾向にあります。利用者の中には、市立図書館に置いてあるカレンダーを見て来た、という方もあり、この点においても連携が図られ感謝しています。また、本日の午前中には、竜洋中学の図書ボランティア5名の方が来館され、論文・情報検索を体験していただき、このような取り組みも大学図書館としては、大変ありがたいことと感じています。

その他、現在図書館コンピュータシステムの更新中であり、この4月には学外向けに情報公開・蔵書検索が可能となるよう進めています。また、図書館にはスポーツや体育、心理学など専門書のコレクションもあるので、ぜひ皆さんにも利活用をお願いします。大学においてもスポーツ関係の出張指導、キッズスクールの開講など地域との関わりも多く、土・日曜日には親子連れが学内を散歩してくれるなど、大変微笑ましい光景も見られています。

(平野委員) 現在、子育て支援センターにいますが、子どもに本を読んであげると本当に目を輝かせてくれます。先ほどブックスタートの説明がありましたが、欠席者へも案内をしているのは本当にすごいと思います。ちなみに、その中で出席の状況はどうでしょうか。

(金原館長) 全体の2割程度となっています。例えば、以前ご参加いただいた経験のある親の場合、第2子、第3子となると、なかなか出席までに至らないケースもあ

り、このことも出席結果の要因となっていると思われます。ブックスタートは、本をお渡しすることが主目的ではないため、その啓発にも努めています。

(平野委員) 先ほども話題にあがった、発達障害児と親との件では本当にどうしていったらいいのでしょうか。

(金原館長) 図書館だけでは難しく、他部署との連携も必要となると考えます。図書館としては、関連情報の発信などができるかもしれないと考えます。

(飯田教育長) 例えば、親が自分の子に障害があるのかわからない、不安な時にはこのような関連本がある、障害があるとわかった時にはこのような本、また障害のある方がこんな活躍をしている、ということがわかるような本などを段階に分けてコーナーを設けることも、一つの方法のように思います。

(長島主幹) 2～3年前にそのような分野の要望・リクエストがあったため、関連する図書を必要に応じて入れています。

(高梨委員) 自分の子が保育園時代は、先生から本を紹介してもらったり、子育てに関する講演会などが多かったように思います。このような環境がどうしても減ってしまうことはやむを得ない所もあるかと思えます。また、自分が読んで良かったと感じた本を人に紹介したくなる環境も同様に減ってしまった気がします。

このような環境を変えていくためにも、読みたくなる本の紹介方法やきっかけづくりなど研究できれば良いと思います。例えば「教育長お薦めの本を紹介します」というのも良いと考えます。

(川井委員) 関連する本はたくさんあります。ただ、本の中に書いてあることに自分の子を当てはめ過ぎてしまい、思い込みが強くなってしまいがちの方が多いのです。どうしたら親子と図書館との間に繋がりを持たせられるかが課題です。ただ単に本を読めば良いということではないと思います。

(壁屋委員) 図書館が推進している茶の間読書活動のおかげで、小学3年生の担任教諭の話では親子の読書量が増えているとのこと。また、寺田委員さんには福田小学校のブックトークで大変お世話になっており、とても素晴らしい活動をされてありがたく思っています。子どもたちは、本当に読み聞かせが好きでたまらないようです。

その他、学級文庫の本を近くの福田図書館から借用できるとありがたいと思っています。また図書館司書の方から、「この本がおすすめ」といつてくれるとさらにありがたく思っています。

### (3) その他

事務局から説明

太田⇒資料概要説明

#### ①指定管理者制度の現在の考え方について

⇒行財政改革の推進、民間と行政との役割分担の観点からの検討

⇒図書館の性格や運営体制、市民サービスのあり方等を踏まえる。

⇒平成20年度・静岡県下23市立図書館中

1,000人当たり蔵書冊数：第3位

1,000人当たり貸出冊数：第2位 と高水準にある。

⇒平成21年11月市議会・一般質問への市長答弁

「単に運営費削減という視点だけでなく、市民サービスを第一に考えており、長期的な視点に立った判断が必要。今の段階では考えていない。」

⇒昨年の当協議会においても、「市直営」が最適であるとの決定があった。

## ②豊岡図書館の移転計画の経過について

⇒施設の狭隘化、老朽化による耐震上の課題があり、安全の確保が大きな重要となっている。

⇒平成22年度の機構改革（予定）に伴う豊岡支所への移転の方向性が見えてきた。

⇒現在の図書館機能を満たす移転改修を求めている。

## ③汚損破損本の掲出について

⇒平成21年11月市議会において、図書館における汚損・破損の実態と対策についての一般質問あり。

平成20年度：汚損・破損による廃棄図書＝1,983点

※多くは長期間利用による劣化、内62点は利用者の不注意による。

現状では、館内掲示・職員巡視等による汚損等の防止策の他は、利用者のマナー・モラルによるしかない。

⇒汚損・破損本の実情を踏まえ、実際に実物を館内に展示するよう企画したい。啓発用の文書表現は、逆効果にならないように十分注意していく。

## ④国民読書年について

⇒平成20年6月の国会決議により、本年が国民読書年と定められた。

⇒当館でも、図書館だより・ポスター等により周知・啓発をし、年間を通じて種々の図書特設コーナーを設置し、これまで以上に市民等の読書活動をサポートしていく。

## ◆質疑・意見等

### ①について

（青島議長）指定管理者制度は、図書館にはなかなかそぐわないと考えています。無料の原則があり、実際の商売としては成り立たない状況もあります。利益を出すことが困難であるため、経費を削減していくには人件費や設備の関係が対象となってきます。こうなると、指定管理者はあまり余分なことはしなくなると思われれます。全国的に見ても同様な状況ではないかと思えます。

しかし、この制度に対する精査は今後も継続していく必要があると考えます。

③について

※実際の汚損・破損本を各委員に回覧し、確認していただいた。

(長島主幹) 図書の中で、鉛筆で落書きされているもの、ページが破れているもの等は、極力職員が消したり、修復作業を行っています。ただし、修理しても利用できないものは残念ながら除籍をしています。汚損・破損については、いろいろな原因が考えられますが、故意によるものは少ないと考えています。

(青島議長) できるだけ上手なPRをお願いします。

②について

(金原館長) 豊岡図書館の移転に関しては、市議会には別途説明があると思いますが、まだ豊岡支所の機能等が定まっていないため、現時点で明確なことは言えません。スペース等の関係にもよりますが、図書「館」として移転することは、難しいかもしれません。今年の4月から半年くらいの間には詳細が決まっていく予定となっています。

(鈴木委員) 図書「館」から図書「室」へなってしまうと規模が小さくなってしまいますでしょうか。

(金原館長) 先ほども申し上げましたが、どの程度のスペースが確保できるかによります。できるだけ多くの図書を持っていきたいと考えています。

(川井委員) 以前、豊田町が図書館を建設した後、町が成長していったことを考えると、ここの部分をしっかりと考えていただきたい。本来なら豊岡地区に新しい図書館を建てるべきではないかと思います。

(飯田教育長) 耐震の関係で、「館」という名では持っていけない状況はあります。心情的にも「危険」な所は回避したいと思います。現在の豊岡図書館の機能はできるだけ持っていききたいとは考えています。

事務局からの連絡事項 (鮫嶋補佐)

図書館からの情報発信や図書館の魅力をアピールしていくことは、大変重要なことと位置づけています。幸いなことに磐田市立図書館の来館者も年々増加し、多くの方々に利用いただいている施設です。

しかし、この状況に甘んじることなく、様々な「仕掛け」をしていく必要もあります。そのため、来年度もこれまで以上に行政内部や他機関との連携を密にしていくことを念頭に置いていきますが、その一つに静岡県主催の「静岡茶の魅力再発見事業」として、中央図書館の玄関先で、お茶のサービス・試飲会を5月から6月にかけて実施する予定です。また福田図書館でも福田公民館と合同で、9月から10月に同様に実施する予定です。このような取り組みも通じて、他団体と図書館とのコラボレーションによる企画を実施していきたいと考えています。

5 閉会 予定通り本日の次第を終了したので、散会した。

以上